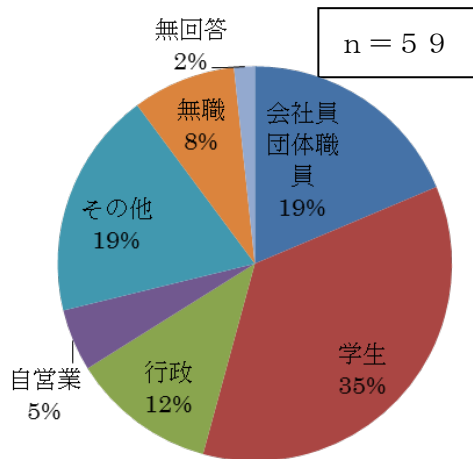


資料3 アンケート集計結果

問1. あなたの職業についてお答えください

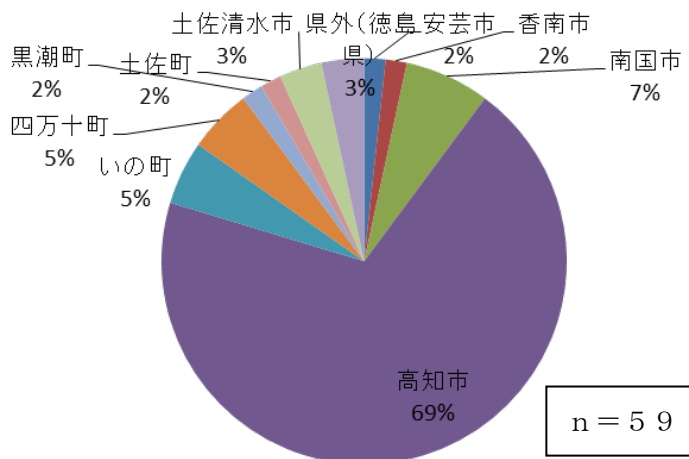
学生が全体の3分の1以上を占めた。会社員団体職員と行政職を合わせると、アンケート回答者の3分の2は出展者及び関係者であると考えられ、一般の県民に対する広報が不十分であったものと考えられる。

一方で、これまで生物多様性保全の活動にほとんど参加が得られなかった若い学生の参加が多く得られたことは、やり方次第で若い世代の興味を引くことができることを示しており、今後の活動を考える上で収穫であった。



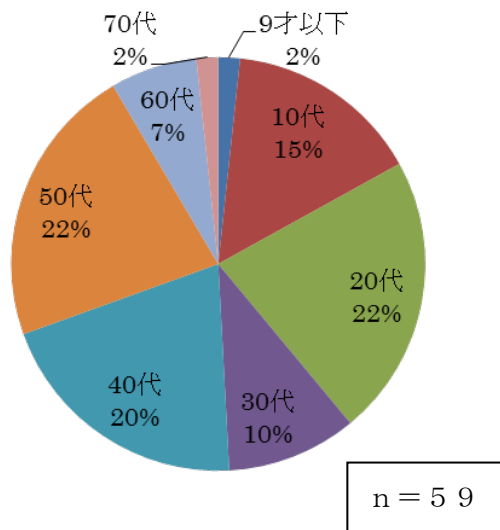
問2. お住まいはどちらですか。

回答者の7割が高知市、いの町、南国市、香南市の近隣市町を合わせると8割以上が高知市及び近郊からの参加だった。



問3. 年齢層をお答えください

参加者は10代から60代まで比較的まんべんなく分布していた。

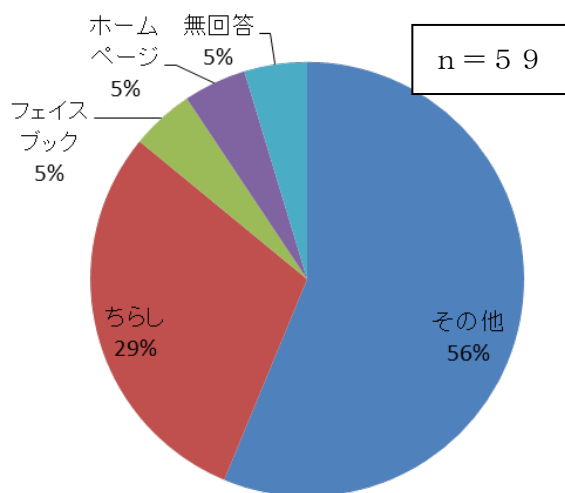


問4. このフォーラムを何で知りましたか

半数以上がその他の手段で知ったと回答し、その内の8割(全体の45%)は関係者や出展者などからの口コミで知ったと回答している。次に多かったのはチラシを見て知ったで29%。ホームページやFacebookなど電子的な広報手段で知ったと回答した人は少なく、新聞やテレビ・ラジオなどマスコミで知ったという回答はなかった。

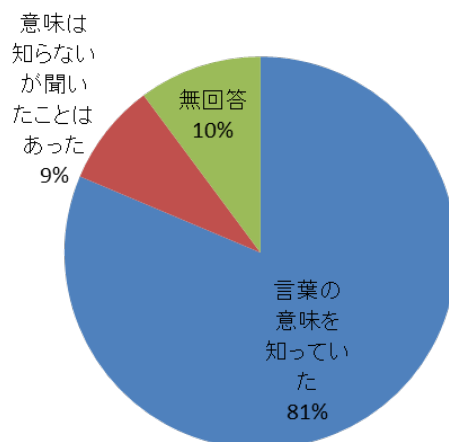
このことから、回答者の多くは高知生物多様性ネットワーク会員の知人またはつながりのあるグループに所属して

いる人であり、参加者の職業のかたよりを合わせて考えると、広く一般の県民に参加を呼びかけることができていなかったものと考えられる。今後、生物多様性の主流かを目指すイベントを催す際には、広報の手段を検討する必要がある。



問5. 「生物多様性」についてどれほど理解していましたか

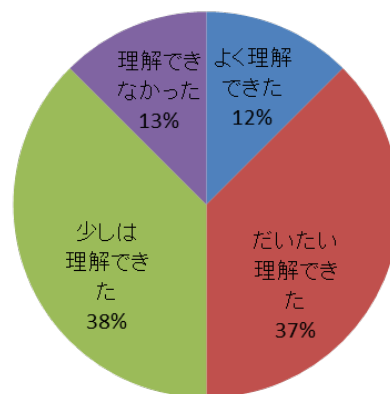
生物多様性の言葉の意味を知っていた、という回答が8割を超えており、この回答からも、今回のフォーラムへの参加者は既に生物多様性に関心を持っている特殊な層であったことがうかがえる。



問7. 問5で「意味は知らないが聞いたことがあった」「聞いたことがなかった」とお答えの方に伺います。

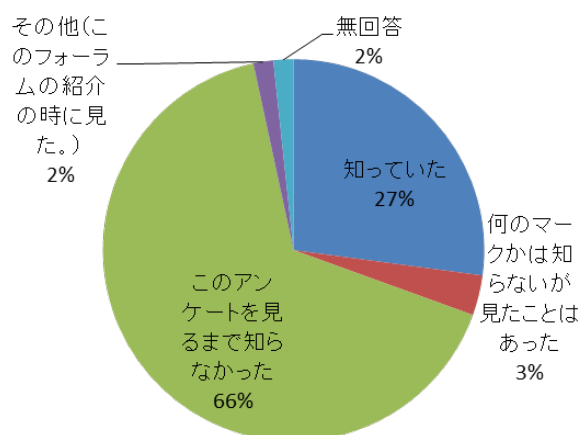
フォーラムに参加して「生物多様性」について理解できましたか

また、意味は知らないが聞いたことがあったと回答した9%の回答者の半数は良く理解できたまたはだいたい理解できたと答えており、アンケート回答者は大学関係者や出展者を中心に、生物学的な知識のある人が多かったことを物語っている。



問8. あなたはこのマークを知っていましたか

昨年度高知県が作成した生物多様性のロゴマークを知っていた人は27%、見たことはあった人を合わせても30%にすぎない。生物多様性に関心のある特殊な層が集まっているにもかかわらずロゴマークの認知度が低いことがわかった。



問9. このマークを通して、県内の方々に生物多様性をもっと知っていただくためには、どのような方法が良いと思いますか。(自由回答)

イベントによる宣伝、チラシやステッカーなどにして多量に配布、インターネットやマスコミを利用する、学校を通じた宣伝など多数のアイデアが寄せられた。具体的な意見を以下に示す。

- シールにして関連イベントポスター等に貼る。名刺の台紙に使ってもらう。
- マークをもっと利用する。存在を知らない人が多いと思う。
- イベントのパネルやチラシなどに載せておく。ステッカーにして目につくようにする。
- 小学校や中学校などの所に講演を行いに行く
- 学校で配布。
- 各教育委員会(学校)にお願いして、子供たち及び父兄に広める(未来へ続く効果)社会教育(公民館活動)で社会人にも広める(講演ポスター)社協にもお願いし、各地のふれあい事業で老人方にも手伝っていただき知恵と協力を得ると効果大。
- 子供から高齢者までが行きたくなるようなイベント。食をからめたイベントなど。
- 子供を通して親も刺激されるような活動を行う。
- 県内各小中高にポスター掲示。図書館にポスター掲示。「生物多様性とは」のごく簡単な説明が冊子に欲しい。言葉の意味がわかるようでわからない。
- 牧野植物園で様々なイベントを開催する。防災相物の料理教室。ジビエ料理の教室 etc を通して、色々な世代に知ってもらう機会を作るなど。
- 高知県の博物館や植物園でのPR。
- イベントをして、今日みたいな取り組みをつづけていくとよいと思います。
- 生き物体験、たべもの体験のイベント。

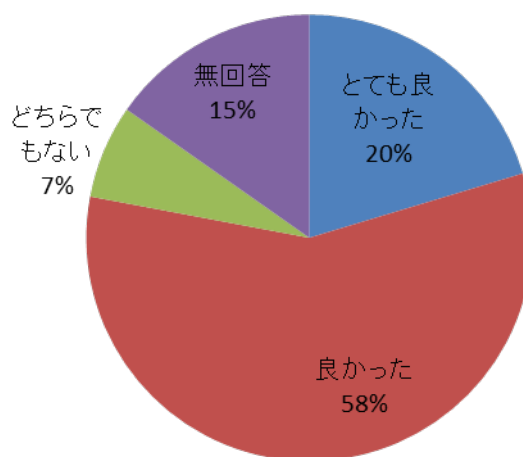
- イベントを開催(来場者参加型のブースを作る)ステッカーを作成。
- イベントを開催。
- 観察会やキャンプ等で実際に体感していただくこと、地道な PR 活動、地域学校等でも教育の機会を増やす。
- イベントを開催【実際に、高知の自然を知る機会がないと素晴らしさが伝わらないと思う。】
- イベント等の開催、時にステッカーなどのグッズとして配布物と共に配る。
- 継続的にイベントを開催、学校で伝える。
- 県民の方々にそれぞれの時点で興味をもってもらうことが大事ではないでしょうか。インターネットは偏った情報しか伝わらないので、イベントやグッズ等がいいと思う。一番はマスコミに取り上げてもらおう。
- 今回のように高知県の生物多様性の発表を行い、多くの人に生物多様性について知ってもらおう。
- ゆるキャラ宣伝。
- ホームページを活用、イベントを開催。
- ホームページ等ネットを活用。
- フェイスブック、ツイッターを活用、面白い発想を発信すること。
- よびかけ、ホームページ、イベント、チラシ。
- SNS、イベント、グッズ販売
- ネットを活用。
- ホームページ等ネットを活用、イベントを開催、グッズを作成。【入口はなんでもいい。とにかく、気づいてもらうこと。自分の当たり前は他人からは当たり前ではなく。】
- 新聞記事。
- テレビ番組(CM 含む)を通してアピールしたらどうでしょうか。
- いきものの繋がりの組織へこのマークデータを一齐送信。各メディア・報道へ流す。
- 1つは今回ポスター発表された方々が日頃の活動時にマークの付いた身につけるもの(かさばらないもの)を共感していただき、その方々が活動時に周りの方々に提示し、少しずつ知っていただけたらと。もう1つはホームページ等で、毎日、生物多様一口メモでその季節・季節の身近な自然を紹介(人の暮らしや遊びも含む)する時にマークを付けてはいかがでしょう。
- 口コミも大事なのではと思います。学校で生徒に説明して、それが親にまたは兄弟に伝わり、それがまた広がって。
- とりあえず学生に広める努力を！私もたまたまきただけ。聞きたい人もいるはず
- 県内各地に活動リーダーを育成する。ネットワークの形成。

- 日常の生活の中で取り組んだり、活動できること。例、河川のゴミ拾い、清掃活動、護岸工事の必要性
- 関連する団体やイベントで自由に利用できるように画像データを提供する。
- 端的な事例やそれに関わる製品等に、このマークをつけて紹介する。
- 商品(特に農水産物)で有機栽培や里山保全などに取り組む地域のものにシンボルマーク的に使用する。(色は最も理解しやすい生物多様性だと思うので)
- このマークをもっと宣伝する。
- ステッカー
- チラシの配布。
- とりあえず色々なとこに貼る(ポスター等)
- ポスターを目に付く場所へ。(学校、県庁、市役所、病院、スーパー)
- 生物多様性があるからこそ仕事が成り立つという仕事を創出していけば人はそれを守らざるを得なくなる。
- 「山陸のカキの養殖」に山と海の関係は知られていて、高知でも十分使えそう。他県の例を用いてPRしていく。

問10. フォーラムの内容はいかがでしたか

とても良かったと良かったを合わせると80%近い人が肯定的な回答を寄せている。

その理由として自由回答を求めたところ、良かった理由としては生物多様性の間口の広さや、県内にたくさんの活動があることを実感できたことが多くあげられた。逆にマイナスの意見として、広報や見せ方などに工夫が足りず、一般の県民にアピールできていないことがあげられた。具体的な意見を以下に示す。



【とても良かった】

- 高知県の様々な方々の活動を知ることができて、とても良かった。
- 生物多様性を詳しく知ることができた。
- 様々な活動について詳しく紹介されていて、とてもわかりやすく楽しめました。

- 川口小学校の皆さんの発表一よく観察して発表が素晴らしかった。定点カメラの設置に興味があり、とても参考になりました。ぜひ芥北の山間でもやって欲しいです。
- たくさんの取り組みがあることを知ることができた。
- 様々な分野があって面白かった。
- 小学生や高校生の展示も多く、そして知識の豊富さも見られ刺激を受けた。
- 自分の知らないことを色々知れた。初めてスナホリカニを見れた。
- 自身の専門以外の内容への興味がわき、また、知識の共有・情報の交換ができた。
- 私にとって驚きの知らない発表がたくさんあってこれからの将来の考えに変化を生みそうだったから。
- 色々な人に出会えた。

【良かった】

- ポスター内容で熱心というより「熱い」といった方がよいと思う方々が一堂に集まり、それぞれが取り組んでいることで現状を知り、目指すところの取り組みや話をうかがえ、共感し、自分も視野が広がるとか、より深みが出るとか、あらためて大事と感じたりとか、勉強になった。
- 様々な分野のことを生物多様性という1つのまとまりとして知ることができ、とても良かったと思います。
- これだけ多くの方が生物多様性に取り組んでいることを知れて良かった。
- 思ったより色々な所からポスターが出ていて、出元とないような多様性が良かった。
- みなさんが熱心にプレゼンしていて良かった。
- スタッフが親切だった。
- 興味深い取り組みがあった。会場が狭くて通りにくい、じっくり読めないのは辛いです。
- 様々な話が聞けて面白かった取り組みを様々に知れて。
- 色々な分野、研究の話を聞いた。
- A/M 中のみ(ポスター掲示のみ)様々な団体の取り組みが紹介されていて、その概要は理解出来る。内容がすこし難しい部分もあった。学校(河川にある学校？56年生)の活動を再認識。
- 写真が多くわかりやすい
- 現在の山の現状を取り組みについて知ることができた
- 高知県における生物多様性について考えることができた。
- 知らなかった団体や活動などを知ることができた。
- 地域について調べている小学生の発表の場となっている。

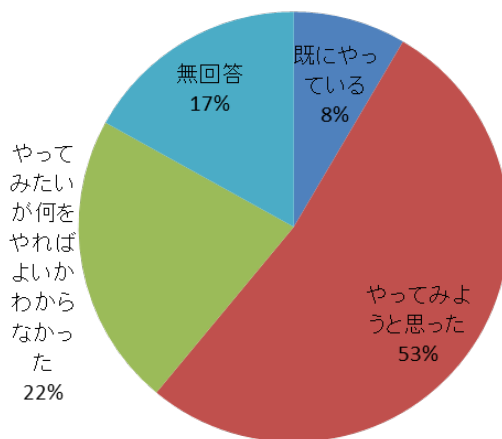
- 堅苦しくなく、自由な感じが良かった。
- 県内のいろいろな取り組みを知ることができた。
- 高知県にこんなにも生態系について考え、活動している方がいると知れて良かった。
- ポスターをみる時間が少なかった。
- 幅広い年齢のボードがあり、活動の広さがわかった。生物が好きだから。
- なんでも興味を持つきっかけとなった。色々な活動があると知れた。多様性を感じた。
- たくさんのポスターを一度に見ることができ、様々な知識が得られた。

【どちらでもない】

- 一般県民に理解を広げる機会とみると、会場の選定、チラシのデザインや内容などより工夫がいろいろに思う。
- 基本講演等、全体のテーマに関する話が欲しかった。
- 生物多様性自体がつかみにくいので、分散した感があります。

問11. 本日のフォーラムに参加して、生物多様性を保全するためにご自身で何かやってみようと思われましたか

せつもん「既にやっている」が8%、「やってみようと思った」が半数以上あり、積極的に取り組もうとする意思がみられた。一方でやってみたいが何をやれば良いかわからなかったも22%あり、参加者の特殊性により既に活動を行っている人がいる一方で、間口の広さがかえって活動をわかりにくくしている一面をみる事ができた。具体的な意見を以下に示す。



【既にやっている】

- 自分ではできることを引きつづきやっています。
- 現在も取り組んでいることで問9で答えたこと。
- 現在やっている活動をさらに深くすすめていこうと思うようになった。
- 多様性を保全するためには、それ以前に多様性を認識する必要がある。それを推進する活動は今、すでに行っている。

【やってみようと思った】

- いにしえの人より学ぶことが多く、二十四節季七十二候を見る度に自然に目を向け自然と暮らしてきた日本人の美意識を大切にしていきたいと思います。日常の中に保全につながることも多々あることと思う。
- 興味がある。
- 農家民宿にとまり、農業体験などをしたい。
- 具体的な方法や身近なものがあまりなかった。
- 生物多様性の保全は、地球環境を守ることだと思ったから。
- 身近でできる活動が多数あることを知ったため。
- 自分の山(ミカン畑)等でも手入れの仕方のできるかなと思うことがありました。
- 干ばつ材のマキを利用できないか考えるきっかけとなった。
- 水界生態系の研究をやりたいと思った。できる時間があまりないが。
- 三嶺の森の現状の写真を見て衝撃を受けたため。
- 三嶺の森の現状の写真を見て衝撃を受けたため。
- まず、知ることから始めたいと思う。
- 地元の海と山を保全する活動へ参加する。
- 高知県は多様な自然環境を有しているので、その自然を次の世代にも残していけるようにしていきたいと思います。
- 現在、断酒中。リブレティもお酒なしの生き方 ハイソサエティーとハイリブラエティーにちなんでクリーンな脳で自然と大地生き物との関わりを大事にたく カルペティエム、その日、1 日を大切に生きる。食べ物を大事、そしてそれは自分をとりまく環境も大事。自然や友人も大切にしたい。
- 現在行っている研究(調査)からつなげていくことができると思う。生物多様性に関して知っている人が、これを知らない他者へ教えてより広く認知させるべきと教える。
- いろいろ生物多様性について調べてみようと思った。
- 生物多様性を守ることは、自身を守ることにもつながるから。
- 私は様々な生物がいて美しい世界のほうが資源を使いすぎたり、様々な生き物をなくしている今よりも好きだから。
- さらに今の仕事に活かせるように努める。
- 人と出会う。知らないことを知る機会をもつ。
- 自分と寄り添う暮らしをすることで、自然の大切さを自ら感じたいと思った。(たぬき油等)

【やってみたいが何をやればよいかわからなかった】

- こういう活動があるとは知ることができたのですが、それをどう私たちができるか、どのように参加できるかは。
- なかなか、発表されることをしっかりとやろうとは思わない。すこし気楽にできれば。
- どうやってよいのかわからない。手段、目的、結果(保存、保管)(どこにおかしてもらうのか、又、自分の技術の未熟さでの不安)地域(各町村)に地域支援員(交流を含め補助事業で雇用されている)が数人おられるが、その方達の知恵技術等をフルに活かしていただき、行政教育との連携によって保存(PRも含め)お願いしたい
- 高知県のいろいろな問題を知れて、この自然を守らないといけないと思った。
- 保全へ向けた課題はいくつか見つかったが実際に自分自身で取り組める具体的なことが分らなかった。

問12. 高知生物多様性ネットワークでは、生物多様性こうち戦略の実現を目指して活動を進めていこうと思っています。皆様のご意見、ご感想などがありましたら、自由にご記入ください。

お褒めの言葉がある一方で、準備時間が足りず泥縄式にスケジュールを決めたことや広報の失敗などに関する厳しいご意見をいただいた。

- 植物・動物・食材等、目に見える具体的なことに目が行くのではと思いますが、それらを育む基盤があることが私はとても重要と思っています。
- 土地、地形、気象、温度、気候風土、水、空気といった地盤です。進めていくにあたり、バランス感覚を持たれ、ランドスケープの視点を持った方とも進めていかれることを望みます。
- 内容充実していたと思います。実施、設営等お疲れさまでした。
- 生物多様性は最も守らなければならないのだと思います。それで牧野植物園でポスターを見て、検索したけど出てこない。なぜだろうと思ったら、フェイスブックをでのHP、高知大のHPを見たけどでてこない。いったい人に見てもらいたいのかと疑問に思いながら、もう一度、ポスターを見てメールアドレスを書き写してメール。そしたらポスター展示のみとの返事。ポスターだと自分の知識以上に深められないので残念と思ったけど、まあそれでもと思って午後に口頭発表とある。なぜ、これを最初からポスターに書かないのかと一日中いるスタッフと学生だけわかっていて、身内だけ

でわかっている、身内だけ参加すれば良いのか。ちっとも開かれていない。これで何を伝えるつもりなのか。

- 何を主に残すか、選択に迷うこともあると思います。例えば、昨日の特例公演中（高知大の庭を整備し、蛍の住める環境にすると「とんぼ」がいなくなった。蚊のいないすっきりとした場所で癒えるのを好むか、うっそうとした場所を選目に傍観するのか。それぞれご意見があり、多数のご意見を採用するのか・・・ 又、山嶺等のシカ被害、私の住む芥北でもイノシシが出没、地面を掘り、土砂崩れの原因になりそう 駆除もやむを得ない。）野菜でも、気候（長雨、乾燥）により、害虫での農薬使用は避けられない面がある。でも点滴として利用農薬もあり生物多様性は我々先生社会に大切であり、ぜひ進めていただくように、よろしく願いいたします。
- 午前中に講演があつて欲しかった。
- 今回のフォーラムを県内の他の場所でも開催したら良いと思う。
- 現在：多様性を破棄してもお金が儲かればよい、お金を持っているのが cool なんだ。権力と文化が集中する東京が cool なんだ。→未来：多様性を守らざるを得ない仕事。多様性を認識したほうが cool という風潮を作らなければならない。この価値観を破棄していく哲学的な活動が必要。
- 自分一人の視点はかたよりがある。ちょっと疑わしい。偏っているから。他の人の視点で知ることが、僕の視点に広がりをもたらしてくれるので、ここへ来ました。
- これからも続けて欲しい。とても発見のある発表だった。

以上